

DMtoJPGIS Ver1.0

操作説明書

平成 19 年 3 月

国土交通省国土地理院

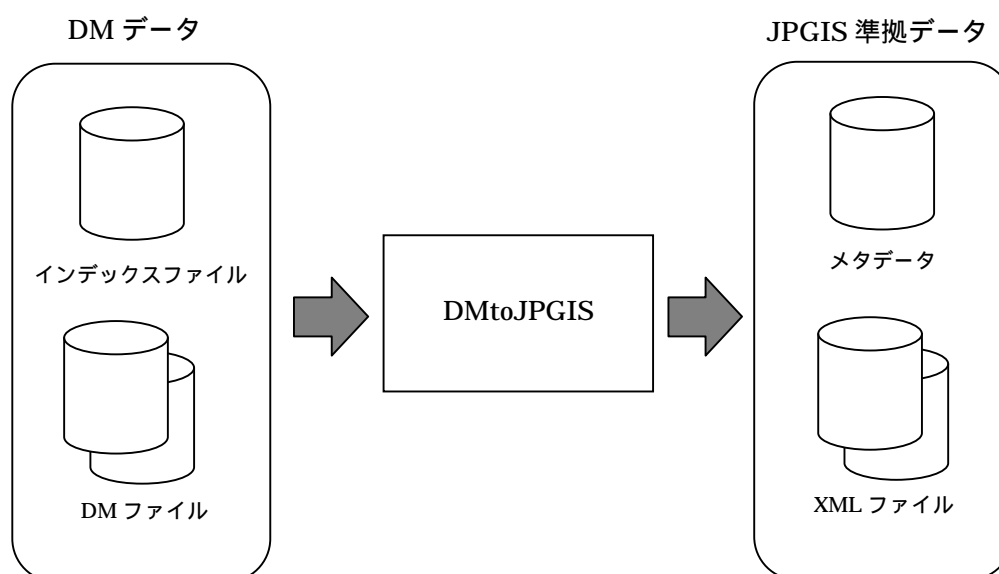
目 次

はじめに	3
1. 使用準備	5
1.1 動作環境	5
1.2 インストール	5
1.3 アンインストール	5
2. 操作方法	6
2.1 システムの起動	6
2.2 システムの終了	6
2.3 変換	7
2.4 ログファイルの表示	9

はじめに

このソフトウェアは、「公共測量作業規程」付録 7 デジタルマッピングデータファイル仕様に基づくデジタルマッピングデータ（以降、DM データという）を、「地理情報標準プロファイル（JPGIS）に準拠した DM データ製品仕様書（案）」（以降、製品仕様書という）に準拠したデータに変換するためのフリーソフトウェアです。

このソフトウェアを利用することで、手持ちの DM データを JPGIS に準拠したデータに変換し、さらに変換された JPGIS データのメタデータを自動作成することができます。



本ソフトウェアの使用に際しては、次のような制約がありますので、十分ご理解のうえ、ご利用ください。

- ・ 本ソフトウェアでは DM データのそのものの検査は行いません。デジタルマッピングデータファイル仕様に準拠していない DM データを入力した場合、正しい処理が行われませんのでご注意ください。
- ・ 拡張 DM データには対応していません。
- ・ 製品仕様書では使用する座標系を世界測地系と定めています。DM データの座標系が旧座標系の場合、本ソフトウェアでは旧座標系から世界測地系への変換を行いませんので、DM データを世界測地系への変換を行ったうえで本ソフトウェアを使用してください。
- ・ 製品仕様書に定められた地物に対応する DM データの要素を変換対象とします。つまり、

公共測量作業規程で定められた図式分類コードを持つデータが変換対象となります。整備主体が独自に定義した分類コードを持つデータ及び属性レコードは変換対象にはなりませんのでご注意ください。変換された分類コードおよび変換されなかった分類コードの要素の数はログファイルに出力されますので、変換状況を確認するにはこのファイルを参照ください。

- ・ DM データの内容が、TIN 及びグリッドデータの場合は変換されませんのでご注意ください。
- ・ 製品仕様書には行政界や都市施設など、関係する線状の地物を集めて面とする地物が定義されていますが、本ソフトウェアでは、このような地物の生成は行いません。
- ・ JMP2.0 に準拠したメタデータを自動作成します。必要最低限の項目は、入力した DM データ及びインデックスファイルから実装しますが、全ての項目に対して実装は行いません。作成されたメタデータは、メタデータエディタで編集することができますので、必要に応じて適宜項目の内容を変更してください。

本ソフトウェアの具体的な活用方法につきましては、別冊の「説明書」をご参照ください。

1. 使用準備

動作環境

本ソフトウェアは、以下の環境で動作します。

- ・ 対応している OS は Microsoft Windows 2000 / XP です。Windows Vista は動作検証を行っていません。
- ・ Microsoft .NET Framework Version 2.0 以上の再頒布パッケージがインストールされていることが必要です。入手やインストール方法などの詳しい情報は、マイクロソフト社のホームページを参照してください。
- ・ メタデータを表示、編集するためにはメタデータエディタが必要です。メタデータ及びメタデータエディタについては、以下の URL を参照してください。

<http://zgate.gsi.go.jp/ch/jmp20/jmp20.html>

- ・ 操作マニュアルは PDF 形式で提供しています。これを表示するには別途 Adobe Reader が必要です。入手方法など詳しい情報は、アドビ社のホームページを参照してください。

インストール

本ソフトウェアをインストールするには次の手順で行います。

国土地理院のホームページから “ DMtoJPGIS.msi ” をダウンロードします。

“ DMtoJPGIS.msi ” を実行し、画面の指示に従ってインストールを行います。

アンインストール

本ソフトウェアを削除するには **スタート** ボタン → **コントロールパネル** → **プログラムの追加と削除** より “ DMtoJPGIS ” を選択し、削除して下さい。

2. 操作方法

システムの起動

本ソフトウェアを起動するには、デスクトップ上の DMtoJPGIS アイコンから、または **スタート** ボタン → **すべてのプログラム** → **DMtoJPGIS** より起動します。正常に起動すると、次の画面が表示されます。



システムの終了

本ソフトウェアを中断、終了するには、**キャンセル** ボタンをクリックするか、あるいはウィンドウ右上の **×** ボタンをクリックします。

変換

初期画面にて **OK** ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。



設定すべき項目とその内容は次のとおりです。

インデックスファイル

インデックスファイルを指定します。インデックスファイルは、メタデータを作成する際に使用しますので、インデックスファイルが存在しない場合には、指定しなくてもかまいません。
対応拡張子：“idx”、“dim”、“dat”

DM データファイル

一つ以上の DM ファイルを指定します。

対応拡張子：“dm”、“sin”、“shi”、“dat”、“kih”

出力フォルダ

JPGIS に変換したデータやメタデータなどを出力するフォルダを指定します。

チェックボックス

- JPGIS データを出力する
ここにチェックを入れると、JPGIS に変換したデータを出力します。メタデータのみを作成したい場合などはこのチェックを外すと、効率よく作成することが出来ます。
- メタデータを出力する

ここにチェックを入れると、メタデータを自動作成します。メタデータが不要の場合には、チェックを外します。

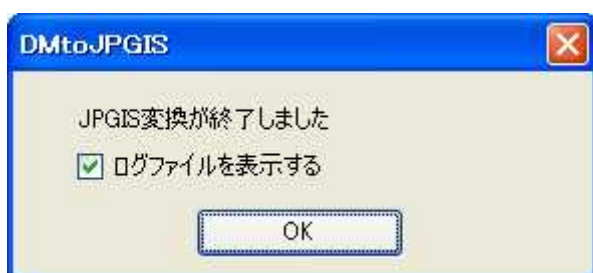
- ・ ログファイルを出力する

ここにチェックを入れると、変換時の状況をテキストファイルに出力します。ログファイルを見ることで、正常に変換できた地物の種類と数、変換されなかった図式分類コードとその要素数などがわかります。

- ・ 円、円弧要素を線要素に置き換えて出力する

ここにチェックを入れると、円、円弧要素を、直線で近似した線要素に変換した JPGIS データになります。変換後の JPGIS データを円、円弧要素をサポートしていない GIS で利用する場合にはチェックをつけて実行します。

以上の項目の設定を行った後に、実行ボタンをクリックすると変換処理が開始されます。正常に変換された場合、次の画面が表示されます。



指定されたフォルダに、次のファイルが出力されます。

- ・ JPGIS 基本スキーマファイル

2007 年 3 月時点の最新の JPGIS 基本スキーマファイルが作成されます。これらのファイルは、XML ファイル中に書かれた URL にある内容と同じファイルで、以下の 13 ファイルができます。

jpsBasic.xsd

jpsCatalogue.xsd

jpsCoverage.xsd

jpsDictionary.xsd

jpsExtraction.xsd

jpsFeaturePortrayal.xsd

jpsGrid.xsd

jpsLocation.xsd

jpsRoot.xsd

jpsRS.xsd

jpsSpatial.xsd

jpsTemporal.xsd

xlinks.xsd

- ・ XML 文書ファイル

JPGIS 形式に変換された DM データです。指定した DM データファイルと同じファイル名で拡張子が “.xml ” のファイルが、指定したファイルと同じ数だけ作成されます。

- ・ メタデータ XML 文書ファイル

メタデータ出力を指定した場合、“ metadata.xml ” が作成されます。このファイルは、メタデータエディタで編集することができるファイルです。

- ・ ログファイル

ログファイル出力を指定した場合、“ log.txt ” が作成されます。このファイルはテキスト形式ですので、メモ帳やワープロなどでも閲覧することができます。

ログファイルの表示

変換終了表示画面で、「ログファイルを表示する」をチェックしたまま ボタンをクリックすると、作成されたログファイルをメモ帳で開き、変換処理を終了します。チェックを外したまま ボタンをクリックすると、直ちに終了します。

ログファイルは、起動時に「ログファイルを出力する」にチェックを入れた場合には、出力指定したフォルダに “ log.txt ” が作成されますので、後からメモ帳などで閲覧することもできます。

以上